

検討の方向性について (案)

〈検討のねらい〉

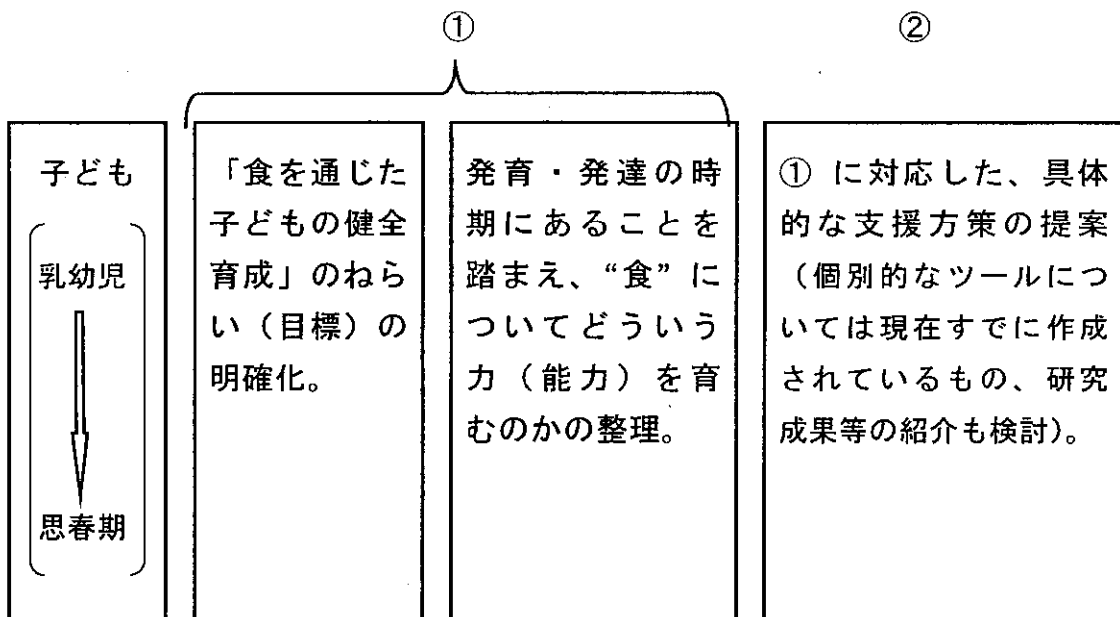
◆社会全体で、子どもの食の重要性についての認識を高め、食に関する取組を支援していくための、「食を通じた子どもの健全育成」のねらい(目標)の共有化

- 子どもの食に関わる関係機関・団体による、個々の取組から、連携した取組へ
- 多種多様な場での取組の展開へ

◆子どもの食を支援する人々のアプローチの転換

- 栄養・食品中心のアプローチから、食のもつ多面的な要素を重視したアプローチへ
- 一方向性の「指導」から、食べる力を「育む」ことを目指したアプローチへ

〈検討内容〉



検 討 課 題 メ モ (案)

- 1 子どもの食をめぐる現状について、今回の検討を進めるにあたって、特に認識しておくべき課題として、どのようなものがあるか。
 - ・ 子どもの変化
 - ・ 親、親子の関わり、家庭の変化
 - ・ 環境の変化 等

- 2 子どもの発達段階に応じた「食を通じた子どもの健全育成」のねらい（目標）について

○乳幼児期から思春期を通して、子どもの健やかな心と身体の発達のためには、“食”に関してどのようなことをねらい（目標）とすべきか。

○乳幼児期から思春期を通して、発達段階によって、食をめぐる課題や、支援方法が異なると考えられるので、大きくいくつかの段階に分けるとすれば、どのような段階か。

例) 乳児期、幼児期、学童期、思春期

- 3 ここでは仮に“食べる力”と表現しているが、“食”には多面的な要素があり、子どもの時期に“食”を通じてどのような力を育てていくことが必要か。
 - ・ 健康（心と身体）の関わり
 - ・ 人との関わり
 - ・ 食べ物との関わり
 - ・ 環境・文化との関わり 等